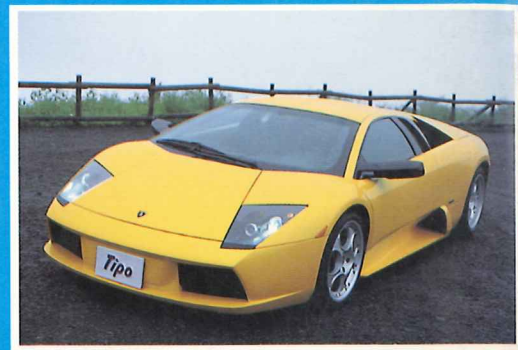


2002年 **7** 月号 定価 **590**円
No.157 **カー・マガジン・ティポ**

Tipoo

Dramatic Car-magazine



風雲急を告げる! スモールカー
戦国時代を生き延びるには?

主な内容: ●エアロあり、軽量あり、エンジンチューンあり、チューニング
アルファ147完全補足! ●ニュー・マーチの実力検証! 実力は? デザイン
は? モデファイは? ●シトロエンから注目のC3。さて、偉大なる先輩2CVと
の比較だとうなる? ●大切なのはその心意気! あなたはアバウトしてま
すか? ●どうせ買うならウンチク付きで。ワケありスモールカーカタログ!

スモールカー戦線に異常あり!

日本上陸間もないアルファ・ロメオ147のチューニングが元気だったり、シトロエンから2CVの再来と言われるデザイン&コンセプトのC3が登場したりと、まさにスモールカー市場に今までなかった異変が起きている。そんなコンパクト・カーに大注目の特集だ!



Dramatic scene
ランボルギーニ・ムルシエラコ
汗と涙のコミックス! 田中むねよしの
「BOLTS AND NUTS!」
太田哲也の連載エッセイ
「KEEP ON RACING!」

- ルノー・ルーテシア1.4
- メルセデス・ベンツCLK
- マツダ・アテンザ

偉大なる車レース!
ル・マン予備予選



遂に上陸!最強の156日本の地を踏む!
アルファ・ロメオ156GTA
太田哲也が試乗!

いよいよスタート!次はあなたの街に伺いますよ!
Tipoo&ニュー・ミニ・ドライビング・チャレンジ

オール・アラウンド・ジャパン
Part.1 九州編

シトロエン博物館開館間近!?
ダブル・シェブロンの館

ドイツ・アルファのコンプリート

Novitec147

撮影：内藤敬仁

ノヴィテック

tel.054-277-0753

ドイツのチューナーであるノヴィテックからリリースされた、過給器付きのアルファ147。注目のスーパーチャージャー（以下S/C）は、専用のインタークーラー、オイルクーラーが装着され、エンジンはオリジナルセッティングのECUによってマネジメントされる。これまでノヴィテックというターボのイメージが強かったが、排ガス規制と環境問題を考えてS/Cを選ぶあたりは、コンプリートカーとしては当然かもしれないが、ドイツのお国柄が滲み出ている。18インチを支える足廻りは、オリジナルの車高調整式。各パーツはキットとしても発売される予定だ。車両価格は未定、詳細は問い合わせを。



4気筒最強の147登場か!?



ノヴィテック147のインテリアはメッキ類でドレスアップされる。アルミ製のハンドブレーキレバー、ペダルセット（AT用もあり）、フットレスト、そしてステンレス製のサイドシェル・プレートがその内容だ。これらは単体でも発売されているので、既に147に乗っているオーナーも装着可能だ。



約200PSのパワーを発揮するS/C。156を使って先行開発したというこのキットは、コンパクトなコンプレッサの使用で無理なくエンジンルームに収まった。マフラーはデュアルDTMルックの他に、デュアルストリートもあり。



「エアロダイナミックキット」と呼ばれるエアロの内容は、ふたつのインレットを持つフロント・スポイラー、車高を低く見せるサイドパネル、ルーフから水平に伸ばされたルーフ・スポイラー、マフラーを包み込みながら両サイドが跳ね上がる形状のリアスカート。これらはセットで18万円となっているが、単品でも購入可能である。



ボルシェ993用のキャリパーを収めるタイヤサイズは、147オリジナルから2インチアップの18インチ。試乗車はピレリP-ZEROロッドの225/45ZR18であった。これを支えるのはオリジナルの車高調整キット。

ノヴィテックといえば、これまではアルファ・ユニットにターボを装着していたことで有名だ。今回はそれが、スーパーチャージャー（以下S/C）へと変更された。その理由は、コンプリートモデルとして欧州の排ガス規制をクリアするためだというのが、走りにおいても非常に興味をそそられる素材であることには間違いない。

このS/Cは今回のようなヘビーウェットの路面でも、暴れ出した前輪に全く手がつけられない、などという凶暴な素振りには微塵もなく、3000回転以上ならどこから踏んでもシフトルに加速して行く。当然これには147としてはオーバークオリティな18インチというタイヤ・ホイイスのお陰もあるが、セッティングを日本仕様に調整したノヴィテック・ジャパン代表の鳥羽さんの手腕でもあるはずだ。たぶんそのサジ加減ひとつで、このユニットをスリリングなものに豹変させることは、わけないことなのであろう。

次世代過給器アルファは、スーパーチャージャーが担う

147が現代アルファの中で、抜群の走りのポテンシャルをもっていることを、ボクは再三誌面で訴え続けている。その中で唯一格上モデルたちとの対決で問題となるのが、エンジン・パワーだ。ただ、メカチューンはパーツ供給の少なさや、それを請け負うインフラの不整備から、面倒なことも多い。そうなるも、俄然過給器によるパワーアップのウマ味が出てくる。フロントヘビーなV6を積まずとも、小さな4気筒のまま大きなパワーを得る。これはある種理想的だ。

総じてこの147は、自分としては試乗前に気を引き締めて臨んだだけに、あまりにまとまりがよく、もう少しシジャマ馬でもいいか……と欲をかいてしまふほど、完璧（コンプリート）な一台であった。（山田弘毅）